



よねた・けんご／1977年6月、男鹿市生まれ。秋田大学卒業後、秋田特産品会社で物販の基礎を学び、その後、飲食店へ転職。2社でのサラリーマン経験を経て2014年9月、家業である男鹿市船越の特産品卸会社「鼎家（かなえや）」に入社。15年4月から代表取締役。

独自の米菓にこだわって

米田 賢吾（平成8卒）

2014年春、当時社長だった父から「一緒に会社をやるのか」という話があり、鼎家に入社することにしました。入社後、張り切って新規営業で20件ほど飛び込み営業をしたものの現実は厳しく、「同じ商品はもうあるからいらない」「入れてあげてもいいけど、他社より安くできるか」など、ほぼ門前払いの状態でした。

悔しさから出した答えは、「オンリーワンの自社商品を作る」というシンプルなものでした。当時は父と経営方針の違いから、なにかにつけて衝突していました。そんな中、2015年2月に自社製造菓子第一弾として、稲庭うどんでかりんとうを作り発売を開始しました。観光土産品のお菓子として予想以上に評判が良く、この商品のおかげで秋田県内外の取引店舗数が増えたことが今日の発展の第一歩だったと思います。

新商品開発のために訪れた県総合食品研究センターで、米菓等の研究員であった高橋徹先生と出会ったことが現在の米菓製造に力を入れるきっかけとなりました。「これでお菓子を作ってみませんか」と先生からひと握りのお米の煎餅用の生地を頂きました。すぐに試作をしたところ、「あ、これは売れる商品にできる」という言葉では表現できないような感覚があり、商品化を進めました。そして誕生した商品が「淡雪ふわり」という手揚げのお煎餅です。この商品が、弊社の県外販路を開拓する商品となりました。

小さな会社を継いだ私は度々、壁にぶつかりました。しかし、そのたびになぜか、人との不思議な出会いがあり、その出会いが問題を解決し前進するという日々でもありました。その後、米菓、煎餅の奥深さに触れ、商品開発をして自分が非常に面白いと感じた米菓の製造販売を弊社の注力する事業にすると決めました。

昨年6月、潟上市天王に自社工場と米菓匠鼎庵（ていあん）を新設しました。たくさんの方々に秋田県産米の煎餅の美味しさを分かっていたきたいという思いの詰まった店舗です。そのために、新しくこだわりの手焼きせんべいを製造販売しています。昨年は「あきた食のチャンピオンシップ2019」にて、弊社の「金の鼎庵」という甘味噌味の手焼きせんべいが奨励賞を頂きました。今後もお客様に喜んでいただける商品開発をし、「秋田の煎餅といえば鼎庵」と言われるように日々努力していきたいと思っています。

ハマのおせっかいおばさん

渡邊 桃伯子（瀬戸 智子／昭和50卒）

18歳で秋田を離れて45年、横浜に住んで30年になります。本業は、業務システムの開発やWebサイト制作等を業務としている零細IT企業の経営者なのですが、いつの頃からか「ハマのおせっかいおばさん」と呼ばれ、横浜で「世話焼き」人生を送っています。

きっかけは、2010年5月のWebマガジンの発行でした。「横浜」を「人」を通して情報発信する「ヨコハマNOW」というWebサイトを立ち上げました。それから10年。「大人の学級新聞」として、大勢のボランティアライターに支えられ、毎月1回配信して2020年4月で120号になりました。

この10年を振り返ってみるといろいろな出来事がありました。2011年の東日本大震災が起きた直後には、「ヨコハマNOW」に私が書いた「物資支援のお願い」が友人から全国に発信され、我が家には全国各地から300箱を超える衣類が送られてきました。支援物資をトラックに積んで宮城県山元町に向かったのは、2011年4月6日。そのご縁で、横浜市中区の「山元町」と宮城県「山元町」をつなぐことになり、横浜の山元町商栄会の活動によって、横浜市が宮城県山元町を全面支援するまでに広がっていきました。あなたは何屋さん?と聞かれるようになったのはその頃からです。

2015年2月に横浜で開催された「全日本製造業コマ大戦世界大会」。ボリビアの2人の若者が経済的理由で大会に出場できないと聞いた私は、「ボリビア・コマ基金」を創設して、彼らを招聘しました。このときは秋田高校の仲間たちがSNSで情報を拡散し、募金に協力してくれました。横浜在住の尾形淑子さん（旧姓・井川 昭和52卒）は、ボランティアでスペイン語通訳をしてくれました。秋田高校ネットワークの素晴らしさに感謝です。「ヨコハマNOW」主催の「盆栽カフェ」も60回を迎え、世代・ジャンルを超えた交流の場になっています。

「人生100年時代」、私もまだ40年あります。これからも定年退職した夫と二人三脚で地域に根差した社会活動をやっていきたいと考えています。まずは新型コロナウイルスで経済的な被害を受けている中小零細企業のサポートをしていきます。「おせっかい」はまだまだやめられません。



わたなべ・ともこ／1956年秋田市生まれ。一橋大学経済学部卒業後、1989年に株式会社ともクリエイションズを設立。1990年筑波大学大学院経営システム科学専攻（経営学修士）修了（1期生）。2010年からWebマガジン「ヨコハマNOW」を主宰。現在は、NPO法人神奈川中小企業活性化センターなど複数のNPO法人活動に関わっている。